

平成 28 年度

北海道小学校長会教育研究小樽大会

全国連合小学校長会 会長 祝 辞



全国連合小学校長会 会長の大橋でございます。

全国連合小学校長会を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

第59回 北海道小学校長会 教育研究小樽大会が、北海道の各地から多くの会員の皆様の参加を得て、歴史と文化の街 小樽で盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げます。

はじめに、これまでが、北海道小学校長会が北海道の小学校教育の充実・発展に多大な貢献をしてこられましたことに対して深く敬意を表するとともに、全連小の諸活動に積極的にご尽力をいただいておりますことに厚く感謝を申し上げます。

さて、現在、学習指導要領の改訂をはじめとして教育改革が急速に進んでいます。私たち校長は、「これからの時代を力強く生きていくことのできる子供を育てる」という学校本来の役割をもう一度しっかりと自覚し、時代がどのように変わろうとも、学校教育において「変えてはいけない本質的なもの」と、その時代に応じて「変えていかなければならないもの」を見極めていかなければなりません。教育における不易と流行をしっかりと見極め、校長としての使命を自覚し、将来への展望をもち、理想の実現に邁進していかなければなりません。

今回の学習指導要領改訂では、「カリキュラム・マネジメント」を通じて、子供たちが「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」ということを組み立てていくことが求められています。社会で生きて働く知識や力を育むためには「どのように学ぶか」と

いう、学びの過程の質を高めていくことが重要になります。この鍵となるのが「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習指導の改善です。物事に対する見方・考え方を身に付けて深く理解したり、多様な人との対話で考えを広げたり、学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結びつけたりしていくという学びが実現されることによって、生きて働く知識や力となっていきます。このような学習指導を行うことができるようにするためには、全教職員で授業改善に取り組める学校の体制を作っていくことが必要です。今ほど校長のリーダーシップが求められているときはありません。

全国連合小学校長会は「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す 小学校教育の推進」を研究主題として掲げて4年目を迎えました。この研究主題は、先ほど申しあげました、新しい学習指導要領が目指そうとしている理念と、軌を一にするものだと、とらえることができます。全連小ではこれまでの間、この研究主題の下、教育実践と研究活動を積み重ね、学校経営の充実を目指してまいりました。

今年度、北海道小学校長会が、「北の大地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校経営の推進」を副主題に掲げ、組織を挙げて精力的に研究活動を進めてこられ、本大会でその成果を問おうとしていることに敬意を表するとともに、その成果が今後の北海道の教育実践の充実に結実することに大きな期待を抱いております。

結びになりますが、北海道小学校長会のますますのご発展と、本日の大会にご参会の皆様方のご健勝を心から祈念申し上げて、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。